

事業報告書

令和元年度

社会福祉法人 大木町社会福祉協議会

令和元年度事業報告

I. 事業総括

超高齢社会を迎えたことにより、医療費や介護費などの社会保障費が増大し、社会保障を全世代型へ抜本的に変えるため、昨年10月から消費税の引き上げが行われました。このような状況の中、本町においても町とともに地域包括ケアシステムの構築を進めています。

当社会福祉協議会においては、町より生活支援体制整備事業を受託し、町・社会福祉協議会と町民とをつなぐコーディネーター3名を配置し、町福祉課と共同で事業を推進してきました。昨年度は各校区ごとに話し合いが行われ、それぞれの特性に合わせた活動が進められました。大溝校区では買い物支援に向けたニーズ調査、木佐木校区ではふれあいいきいきサロンの各地区への普及、大莞校区ではあいさつ・声かけ・みまもり運動を始めました。また地域活動を支援するためのボランティア養成研修を行いボランティアの育成にも努めました。

障がい者支援事業においては、3年前に実施した手話奉仕員養成講座の入門編（全23回）を再度実施し、障がいのある方への意思疎通の手段である手話の普及に努めました。

当社会福祉協議会の事業全般については、平成30年3月に策定した地域福祉活動計画に沿って事業を実施し、各事業評価を行う中で、事業の進捗状況や成果・課題等の整理を行い、関係機関・団体、ボランティア団体、町と十分協議を行いながら、誰もが安心して暮らせる元気な地域社会づくりを目指し地域福祉・住民福祉に努めました。

しかし、令和2年2月頃から広がってきた新型コロナウイルスの影響で感染症拡大防止のため、令和2年3月においては、受託事業の「もみじ倶楽部」、「認知症カフェ」、「フリースペース」、「ボランティア養成研修・ステップアップ講座」、「元気クラブの一部」は事業中止とさせていただきます。また、生活支援体制整備事業をはじめ、各地域の皆様の活動においても中止・延期となり大変困惑されていることと思います。一日も早く新型コロナウイルス感染症が終息し、皆様がこれまでの生活を取り戻せることを願い、令和元年度の事業報告とさせていただきます。

II. 重点目標

1. 生活支援体制整備事業におけるささえ隊（協議体）の円滑な運営
各校区・行政区ごとに活動を推進し、活動を開始することができました。
2. ボランティアの育成、及び活動の推進
ボランティア養成研修を実施し、修了者は延べ114人となり、さらには活動された方へ地域ポイントを付与することにより活動の推進を図ることができました。

Ⅲ. 各事業報告

法人運営

1. 法人運営

大木町における社会福祉の向上を図るため、事業の健全な発達及び社会福祉に関する活動の活性化により地域福祉の推進を図り、行政や関係機関と協力して事業を行いました。

2. 生活福祉資金貸付事業 < 県社協受託事業 >

低所得者、障がい者又は高齢者に対し、資金の貸付と必要な相談支援を行うことにより経済的自立や生活意欲の助長、並びに在宅福祉と社会参加の促進を図り、安定した生活を送れるよう事業を行いました。

また、生活困窮者支援については生活保護に至る前の方の自立支援を強化するために、生活困窮者自立支援法に基づき、福岡県自立相談支援事務所や町と連携を取りながら対応を行いました。

【今年度中に貸付けた資金の種類】

①総合支援資金：生活支援費	相談 2 件	貸付け 1 件
②総合支援資金：福祉費	相談 1 件	貸付け 1 件
③教育支援資金：教育支援費	相談 2 件	貸付け 1 件
④不動産担保型生活資金	相談 0 件	貸付け 0 件

今年度から教育支援資金の貸し付け要項が変更され、県の育英奨学金を申し込むことが貸付けの条件となり、学校との連携が重要となりました。また、対象者の状況次第で生活福祉資金の申請にはつながらず、食料品など現物支給となった方もいました。

【新型コロナウイルス感染症の発生に伴う生活福祉資金特例貸付】

新型コロナウイルス感染症の影響を受け、休業や失業などにより生活資金でお悩みの方に向けて、生活福祉資金のうち特例貸付を実施しました。

①緊急小口資金

緊急かつ一時的に成型の維持が困難となった場合に、少額の費用の貸付けを実施（貸付上限、据置期間の等の特例）。

②総合支援資金

日常生活の維持が困難な場合に原則 3 ヶ月以内の生活費用の貸し付けを実施（据置期間、保障人等の特例）。

3 月中は、7 名の方が相談に来られ 4 月以降に申請しました。

【民生委員の調査活動協力】

本貸付事業の要請に基づく借受人の調査及び生活実態の把握を当社会福祉協議会と情報を共有し、借受人等の自立更生に関する生活全般にわたる支援者として貸付け申込み時に、借受け対象者から事情を聴き、状況を把握したうえで意見書記入の協力をいただきました。

【研修】

生活福祉資金事務説明会 令和元年 7 月 19 日（金）クローバープラザ
令和元年 10 月 23 日（水）クローバープラザ

3. 心配ごと相談事業

住民の福祉の増進を図ることを目的に、住民の日常生活上のあらゆる相談に弁護士が応じ、適切な助言を行いました。相談は無料ですが、事前に毎月 4 名まで予約を取り実施しました。令和 2 年

3月10日については、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため事業は中止となりました。

《法律相談件数》

R元年度 (H30年度 38件)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
件数	4	4	4	1	1	1	4	3	4	4	4	0	34
家事関係	クレサラ関係		その他(民事)			交通事故関係			行政事件				
18件	2件		14件			0件			0件				

相談日 毎月第2火曜日(原則) 全11回

相談員 福岡県弁護士会 筑後部会所属弁護士

相談時間 13:30~15:00まで(1件当たり約20分)

4. 日常生活自立支援事業 <県社協受託事業>

社会福祉法に基づき、福祉サービスの利用や日常的な金銭管理等に不安がある方が住みなれた地域で安心して暮らせるよう日常的な金銭管理等のサービスを行いました。令和元年10月までは基幹社協(筑后市社会福祉協議会)と利用者が契約し、事業の実施は大木町社会福祉協議会が行っていましたが、11月より大木町社会福祉協議会と利用者が直接契約できることになり、再契約を行い事業を実施しました。

【福祉サービスの利用援助】

- ①福祉サービスの情報の提供や利用するための助言、開始・解約の手続き支援
- ②福祉サービスについて不満がある時、苦情解決制度を利用する手続き支援

【日常的な金銭の管理】

- ①年金や福祉手当等の受領に必要な援助
- ②生活費の定期的なお届け、お金の使い方についての相談、助言
- ③福祉サービス利用料や医療費、公共料金や家賃等の支払い援助

【書類などの預かり(保管できるもの)】

《日常生活自立支援事業契約者数》

上段 R元年度 下段 H30年度

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
人員	2	2	2	2	3	3	3	3	3	3	4	4
	3	3	3	3	3	2	2	2	2	2	2	2

現在の利用者数：4人

【研修等】

- ①日常生活自立支援事業生活支援員初任者研修 令和元年 8月 5日(月)
- ②日常生活自立支援事業地区別会議 令和2年 1月 16日(木)
- ③日常生活自立支援事業専門員研修 1月 17日(金)
- ④日常生活自立支援事業生活支援員実務者研修 2月 18日(火)

5. 大木町障がい者スポーツ大会 <受託事業>

町内の障がい者がスポーツを通じてその人らしさを表現し、健康・体力の維持増進を図るとともに、参加者相互の交流を促進しながら、住民の障がいに対する関心と理解を深め、障がい者の自立と社会参加を目的に実施しました。

第4回目の開催となり、親子での参加が多く全体の参加者も増えました。普段ではできていないスポーツをみんなで楽しまれていました。

また、今回は観客のスペースを設けたことにより、多くの観客の応援と学生ボランティアに支えられて実施することができました。

【 障がい者スポーツ大会 】

実施日 令和元年11月17日（日）12：45～16：00 大木町総合体育館
参加者数 障がい者数：33名（当日欠席者7名）、ボランティア：23名

6. ふくおかライフレスキュー事業（大木町社会福祉法人連絡会） <新規事業>

社会福祉法の改正により、公益性・非営利性が極めて高い社会福祉法人には、「地域における公益的な取組」を実施することが責務として規定されました。福岡県においては、福岡県社会福祉法人経営者協議会を中心に、地域における公益的な取組の一つとして、複数法人の連携による「ふくおかライフレスキュー事業」が進められており、大木町内の社会福祉法人との連携を図り、生活困窮者の迅速かつ根本的な生活改善に向けて取組む体制について2回の準備会を開催し、当社会福祉協議会が事務局となり、令和2年4月1日より町内7つの社会福祉法人で連絡会を立ち上げることに決まりました。

大木町内の社会福祉法人での会議 2回

介護予防・日常生活支援総合事業

1. もみじ倶楽部事業 <受託事業>

介護予防が必要な高齢者を対象に送迎を行い、様々な体操やレクリエーション、簡単な手作業等を行いました。4月と10月には国際医療福祉大学、医療法人社団高邦会の理学療法士・作業療法士、アクアスポーツクラブと合同で「もみじ倶楽部」利用者の体力測定を行い、測定結果を基にそれぞれの利用者に助言を頂き、体力向上に努めることができました。新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、年度の締めくくりである3月の1ヶ月間を中止にしたことは、利用者の安全を考えるとやむを得ないことでした。利用者には簡単な体操や脳トレーニングの資料を配布し、自宅での介護予防をしていただきました。

《もみじ倶楽部 利用状況》

上段 R 元年度 下段 H30 年度

	実施回数	男性	女性	延人数	ボランティア	校区別		
						大溝	木佐木	大莞
4月	12	0	130	130	36	68	55	7
	12	0	137	137	42	72	42	23
5月	13	0	133	133	44	71	52	10
	13	0	150	150	49	85	45	20
6月	12	0	124	124	35	69	47	8
	13	0	136	136	44	66	41	29
7月	13	0	129	129	38	72	50	7
	12	0	110	110	34	65	32	13
8月	10	4	83	87	29	40	35	12
	13	0	134	134	47	69	47	18

9月	12	11	111	122	31	59	53	10
	12	0	131	131	40	71	48	12
10月	14	9	148	157	43	84	61	12
	13	0	124	124	46	71	43	10
11月	13	11	109	120	35	60	48	12
	14	0	129	129	48	70	49	10
12月	12	8	105	113	32	57	48	8
	12	0	125	125	36	73	45	7
1月	12	9	93	102	35	53	41	8
	11	0	105	105	33	62	37	6
2月	12	15	96	111	33	59	45	7
	12	0	123	123	37	67	48	8
3月	0	0	0	0	0	0	0	0
	13	0	131	131	39	71	51	9
計	135	67	1261	1328	391	692	535	101
	150	0	1535	1535	495	842	528	165

*3月は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止

令和元年度新規利用者、終了者数

	新規利用者	体験利用者	介護保険へ移行	その他理由で終了
4月	2	1	1	0
5月	0	0	0	0
6月	0	0	0	0
7月	0	0	0	0
8月	2	2	0	1
9月	2	2	0	0
10月	0	0	1	0
11月	0	1	1	1
12月	0	0	0	1
1月	0	1	0	0
2月	2	1	0	0
3月	0	0	0	0
合計	8	8	3	*3

前年度は介護保険へ移行した方が10名だったが、今年度は3名に抑えられた

*その他理由で終了した方の内訳（死亡2名 転居1名）

もみじ倶楽部利用者年齢構成（登録者 35 名）（令和 2 年 3 月末現在）

年齢	65～69 歳	70～74 歳	75～79 歳	80～84 歳	85～89 歳	90～94 歳
人数	2	2	4	10	10	7

※平均年齢 84 歳

介護保険認定状況（令和 2 年 3 月末現在）

介護保険未申請者	要支援 1	要支援 2
30 名	4 名	1 名

【 特別プログラム 】

- ①体力測定
身長、体重、血圧、長座体前屈、TUG、2 ステップ、SPPB バランス、開眼片脚立位時間、4m 歩行、LAS、体組織測定、握力
（前期）平成 31 年 4 月 3 日（水）、4 日（木）、5 日（金）
（後期）令和元年 10 月 2 日（水）、3 日（木）、4 日（金）
認知機能検査
（前期）平成 31 年 4 月 18 日（木）、19 日（金）、24 日（水）
（後期）令和元年 10 月 2 日（水）、3 日（木）、4 日（金）
- ②社会見学
令和元年 5 月 21 日（火） 大牟田市立 三池カルタ、歴史資料館
令和 2 年 3 月 3 日（火） 新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止
- ③口腔機能向上事業
令和元年 5 月 22 日（水）、23 日（木）、24 日（金）、8 月 21 日（水）、22 日（木）、23 日（金）、11 月 6 日（水）、7 日（木）、8 日（金）
- ④パン作り
令和元年 10 月 23 日（水）、24 日（木）、25 日（金）
- ⑤介護予防栄養講話
令和元年 7 月 3 日（水）、4 日（木）、5 日（金）
令和 2 年 2 月 5 日（水）、6 日（木）、7 日（金）
- ⑥回想法（紙芝居）徳永豊氏
令和元年 7 月 24 日（水）、25 日（木）、8 月 2 日（金）
- ⑦音楽教室
令和元年 9 月 4 日（水）、5 日（木）、6 日（金）
- ⑧音楽レクリエーション（脳トレ、ハンドベル）
令和元年 6 月 6 日（木）、26 日（水）、8 月 16 日（金）、10 月 24 日（木）、12 月 5 日（木）、6 日（金）、令和 2 年 1 月 8 日（水）、10 日（金）
- ⑨スタッフ・ボランティア研修
令和元年 4 月 18 日（木）、6 月 4 日（火）
令和元年 7 月 9 日（火）大木かたらんね体操研修
- ⑩絵画教室
令和元年 10 月 30 日（水）、31 日（木）、11 月 1 日（金）
- ⑪大木町身体障害者福祉協議会との交流会（音楽レクリエーション）
令和元年 12 月 6 日（金）
- ⑫クリスマス会・忘年会（職員の出し物ほか）
令和元年 12 月 25 日（水）、26 日（木）、27 日（金）

- ⑬食生活改善推進会とのおやつ交流
令和2年1月8日(水)、9日(木)、10日(金)
- ⑭大莞コミュニティセンターへ外出(藤の花見)
平成31年4月24日(水)、25日(木)、26日(金)
- ⑮大莞コミュニティセンターで実施
令和元年8月30日(金)
- ⑯イオンで実施
令和元年7月11日(木)、11月13日(水)
- ⑰国際医療福祉大学学生による体操・レクリエーション
令和元年11月7日(木)

2. 生活支援ホームヘルプサービス事業 <受託事業>

生活支援ホームヘルプサービス(高齢者)事業

日常生活に支障のある高齢者等に対してホームヘルパーを派遣することにより、安心して日常生活を営むことができるよう生活全般の支援を行ない、高齢者の介護予防や、自立と社会参加を促進しました。支援内容は下記のとおりです。

- ①家事に関すること
調理、衣類の洗濯・補修、居室等の掃除、整理整頓、生活必需品の買い物、関係機関等との連絡調整、その他必要な家事支援
- ②身体介護に関すること
入浴介助、洗髪、清拭、排泄介助、食事介助、衣服の着脱介助、通院介助、その他必要な身体介護
- ③相談、助言に関すること
生活、身上、介護に関する相談、助言、その他必要な相談、助言

《生活支援ホームヘルプ利用状況》

上段 R 元年度 H30 年度

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用者数	3	3	3	3	2	2	2	2	2	2	3	3	30
	9	6	5	5	5	5	4	4	3	3	4	4	57
利用者 延回数	9	12	12	12	10	8	8	9	8	8	3	16	115
	38	34	27	34	25	20	19	22	12	12	25	22	290

産前産後のホームヘルプ事業(介護予防・日常生活支援総合事業外)

出産前後、体調不良等の理由で家事や育児を行うことが困難な家庭にホームヘルパーを派遣することで、妊産婦の身体的・精神的な負担の軽減を図り子育て支援を行いました。支援内容は下記のとおりです。

- ①家事に関すること
調理、衣類の洗濯・補修、居室等の掃除、整理整頓、生活必需品の買い物、関係機関等との連絡調整、その他必要な家事支援
- ②育児に関すること
授乳、おむつ交換、沐浴介助、その他必要な育児

《 産前産後ホームヘルプ利用状況 》

R 元年度

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用者数			1	1									2
利用者延回数			4	5									9

※6月より支援開始となるが、本人の都合により、支援途中で中断になる。

3. 元気クラブ <受託事業>

買い物支援が必要な高齢者で、外出機会が少なく閉じこもりがちの方等を対象に、自宅から会場、店舗まで送迎し、日常生活に必要な買い物と介護予防体操、脳トレーニング等を行い、社会参加や体力作りを行いました。国際医療福祉大学と高木病院高邦会の協力で運動機能の維持・向上を目的に年4回の体操指導、また体力測定を行い測定結果から個別での運動の仕方や栄養指導を行いました。

令和2年3月は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため事業を中止しましたが、買い物に行けず生活困難な方には買い物のみ（送迎付）支援を行いました。

またボランティアの研修の場として、ボランティア養成講座の受講終了者にボランティアとして活動していただきました。

《元気クラブ利用状況 》

上段 R 元年度 下段 H30 年度

	実施回数	男性	女性	延人数	ボランティア	校区別		
						大溝	木佐木	大莞
4月	4	0	26	26	8	3	16	7
	0	0	0	0	0	0	0	0
5月	4	0	24	24	8	5	14	5
	1	0	8	8	3	2	5	1
6月	4	0	30	30	9	6	20	4
	4	0	34	34	9	9	21	4
7月	5	0	33	33	13	7	22	4
	5	0	50	50	14	9	37	4
8月	3	0	20	20	6	3	14	3
	3	0	31	31	8	7	21	3
9月	5	0	28	28	12	6	18	4
	4	0	33	33	13	5	25	3
10月	4	0	28	28	9	7	17	4
	5	0	45	45	15	10	28	7
11月	4	1	29	30	8	5	21	4
	4	0	35	35	7	8	21	6

12月	4	4	33	37	9	6	23	8
	4	0	33	33	9	8	20	5
1月	4	3	27	30	8	4	23	3
	4	0	35	35	10	5	24	6
2月	4	4	33	37	11	8	25	4
	4	0	38	38	11	6	26	6
3月	5	0	16	16	0	0	16	0
	4	0	29	29	9	5	18	6
計	50	12	327	339	101	60	229	50
	42	0	371	371	108	74	246	51

令和元年度新規利用者、終了者数

	新規利用者	他事業へ移行	介護保険へ移行	その他理由で終了	備考
4月	0	0	0	0	
5月	0	0	0	0	
6月	0	0	1	0	
7月	0	0	0	0	
8月	0	0	0	0	
9月	0	0	0	0	
10月	1	0	0	1	病気悪化
11月	1	0	0	0	
12月	1	0	0	0	
1月	1	0	0	0	
2月	0	0	0	1	本人の希望
3月	0	0	0	0	
合計	4	0	1	2	

【 ボランティア研修 】

令和元年7月16日(火) 7名出席 (2名欠席)

- ・「元気クラブ」ボランティア活動の確認事項
- ・大木町地域ポイント制度の説明
- ・口腔体操、大木かたらんね体操の練習

【特別プログラム】

①体力測定

身長・体重・血圧・TUG・2ステップ・SPPB・4m歩行・ロコモ・握力・体組織測定

前期 令和元年9月9日(月)

後期 令和2年3月実施予定だったが新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止

②理学療法士による体操指導

令和元年5月13日(月)、7月8日(月)、11月11日(月)、令和2年1月14日(火)

4. 認知症カフェ事業

認知症になっても住み慣れた地域で安心して暮らしが継続できるよう、正しい知識の啓発活動や家族の介護負担の軽減を図るために誰もが集える居場所を提供しました。開所時間内は自由に出入りし、脳トレーニング、手芸、ゲーム、回想法DVD鑑賞等を楽しみながら利用できる雰囲気づくりを心掛けて地域住民が気軽に交流、相談ができるよう努めました。大木町認知症初期集中支援チームと連携を図り、認知症についての理解を深めるため「カフェwewe」で『認知症カフェ講座』を4回行いました。

イオン大木店コミュニティルームWeWeで「カフェwewe」を開所していましたが大莞地区からの利用者がいなかったため今年度は試行的に大莞コミュニティセンターを利用し「お〜い！ふれあいカフェ」を開所し、大莞地区の方にも利用してもらうことができました。

また11月17日(日)「福祉フェスタ」では認知症カフェのコーナーを設けカフェ利用者に協力を得て事業内容を理解していただくための啓発活動を行いました。

《認知症カフェ「wewe」利用状況》

上段 R 元年度 下段 H30 年度

	実施回数	男性	女性	延人数	当事者	家族	事業者	地域住民	ボランティア	民生 その他 委員	町内			町外	事業所 その他
											大溝	木佐木	大莞		
4月	2	4	15	19	2	2	1	12	0	2	17	0	0	0	2
	1	0	13	13	0	1	2	10	0	0	8	3	0	0	2
5月	2	3	16	19	0	1	0	17	0	1	16	3	0	0	0
	2	1	21	22	0	1	7	13	0	1	11	3	0	1	7
6月	2	4	25	29	1	2	4	22	0	0	23	2	0	0	4
	2	3	25	28	2	2	2	20	0	2	23	1	0	0	4
7月	2	3	9	12	0	1	0	11	0	0	11	1	0	0	0
	2	3	27	30	7	4	2	11	5	1	18	10	0	0	2
8月	1	0	6	6	0	0	0	6	0	0	5	1	0	0	0
	2	4	16	20	4	4	2	10	0	0	10	8	0	0	2

9月	2	3	21	24	3	4	0	15	2	0	19	4	0	1	0
	1	2	10	12	1	1	0	7	3	0	11	1	0	0	0
10月	2	5	18	23	1	2	0	18	1	1	20	3	0	0	0
	3	3	42	45	2	3	1	32	5	2	34	7	0	1	3
11月	2	2	20	22	2	1	0	17	0	2	17	5	0	0	0
	2	0	18	18	0	4	0	12	2	0	17	1	0	0	0
12月	2	5	18	23	2	3	0	18	0	0	18	3	0	2	0
	2	3	16	19	2	3	0	11	1	2	15	1	0	3	0
1月	2	1	22	23	2	2	0	19	0	0	18	4	0	1	0
	2	1	19	20	2	1	0	16	1	0	17	3	0	0	0
2月	2	2	23	25	1	2	0	22	0	0	20	4	0	1	0
	2	1	21	22	1	2	0	18	1	0	18	4	0	0	0
3月	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	2	1	13	14	1	3	0	10	0	0	11	3	0	0	0
計	21	32	193	225	14	20	5	177	3	6	184	30	0	5	6
	23	22	241	263	22	29	16	170	18	8	193	45	0	5	20

*8/6(火)は台風接近のため、中止

*3月は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止

《認知症カフェ「お〜い！ふれあいカフェ」利用状況》

R元年度

	実施回数	男性	女性	延人数	当事者	家族	事業者	地域住民	ボランティア	民生委員・その他	町内			町外	事業所等 その他
											大溝	木佐木	大莞		
4月	1	0	5	5	0	2	0	3	0	0	2	1	2	0	0
7月	1	2	7	9	0	1	0	7	1	0	3	0	6	0	0
9月	1	1	5	6	0	0	0	6	0	0	0	0	6	0	0
10月	1	1	10	11	0	0	0	9	1	1	4	1	6	0	0
11月	1	1	10	11	0	0	0	10	0	1	6	2	3	0	0
12月	1	1	11	12	0	0	0	12	0	0	5	4	3	0	0
1月	1	1	8	9	1	1	0	7	0	0	3	3	2	1	0

2月	1	1	4	5	1	1	0	3	0	0	2	1	1	1	0
3月	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	8	8	60	68	2	5	0	57	2	2	25	12	29	2	0

H30年度は未実施

*3月は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止

【 特別プログラム 】

①大木町認知症初期集中支援チームによる講話

第1回 令和元年 5月28日(火)

「楽しく学ぼう！認知症と熱中症について」

第2回 令和元年 9月3日(火)

「住み慣れたわが家わが町でくらししていくために」(認知症ケアパスの活用について)

第3回 令和元年11月26日(火)

「認知症の方との接し方について、みんなで考えてみよう・冬の健康について」

第4回 令和2年 2月18日(火)

「かんたん、楽しい！みんなでできる認知症予防」

②「福祉フェスタ」にて認知症カフェコーナーを設置 令和元年11月17日(日)

【 研修等 】

①近隣認知症カフェ視察

大川市 木もれ日カフェ だんらん 令和元年11月 6日(水)

大川市 ハッピーカフェ 令和元年11月11日(月)

柳川市 ここばなカフェ 令和元年11月21日(金)

②第1回福岡県認知症カフェ交流会 令和元年11月17日(日)

③第1回認知症カフェ推進協議会 令和2年 2月 9日(日)

居宅介護事業

1. 基準該当障害福祉サービス居宅介護等事業

障がいにより居宅において自立した日常生活を営むことが難しい方が、町に福祉サービスの利用申請を行い、決定された利用者に対して家事支援および、身体介護の支援計画を作成し、福祉サービスを行いました。支援に関しては、利用者の意思及び人格を尊重し生活全般の援助、保健・医療・福祉サービスの連携に努め、適切な居宅介護を提供しました。

《居宅介護サービス利用状況》

上段 R 元年度 下段 H30 年度

	家事			身体			回数合計	時間合計
	利用者数	回数	時間	利用者数	回数	時間		
4月	1	4	4	1	6	6	10	10
	2	10	10	1	6	6	16	16

5月	2	10	10	1	6	6	16	16
	2	10	10	1	8	8	18	18
6月	2	12	12	1	6	6	18	18
	2	12	12	1	8	8	20	20
7月	2	12	12	1	6	6	18	18
	2	12	12	1	8	8	16	20
8月	2	8	8	1	4	4	12	12
	2	8	8	1	6	6	14	14
9月	2	9	9	1	6	6	15	15
	2	7	7	1	6	6	13	13
10月	1	7	7	1	6	6	13	13
	2	12	12	1	6	6	18	18
11月	1	7	7	1	6	6	13	13
	2	13	13	1	6	6	19	19
12月	1	8	8	1	6	6	14	14
	2	9	9	1	6	6	15	15
1月	1	7	7	1	6	6	13	13
	0	0	0	1	4	4	4	4
2月	1	7	7	1	6	6	13	13
	1	2	2	1	4	4	6	6
3月	1	9	9	1	8	8	17	17
	1	4	4	1	6	6	10	10
計	17	100	100	12	72	72	172	172
	20	99	99	12	74	74	169	173

2. 基準該当障害福祉サービス重度訪問介護事業

重度の身体障がい者等で常に介護を必要とする方に、町が決定した支給量に対して家事支援及び、身体介護の支援計画を作成し福祉サービスを行いました。支援に関しては、利用者の意思及び人格を尊重し生活全般の援助、保健・医療・福祉サービスの連携に努め、適切な居宅介護を提供しました。

《重度訪問介護事業》

上段 R 元年度 下段 H30 年度

	利用者数 (人)	利用者延回数	利用延時間	備考
4月	1	12	30	
	1	6	15	
5月	1	13	32.5	
	1	12	30	
6月	1	12	30	
	1	13	32.5	
7月	1	14	35	
	1	12	30	
8月	1	11	27.5	
	1	12	30	
9月	1	13	32.5	
	1	10	25	
10月	1	13	32.5	
	1	13	32.5	

11月	1	12	30	
	1	13	32.5	
12月	1	12	30	
	1	11	27.5	
1月	1	12	30	
	1	12	30	
2月	1	10	25	
	1	12	30	
3月	1	13	32.5	
	1	13	32.5	
計	12	147	367.5	
	12	139	347.5	

包括的支援事業

1. 生活支援体制整備事業 <受託事業>

平成30年6月に協議体（大木ささえ隊）を発足し、令和元年度においては、各行政区・各校区・町全体が活動方針を決め、それぞれの地域課題を抽出し、優先順位をつけ解決へ向けた協議を重ね実行策を考えました。

1) 課題や資源等の把握および開発

(1) 各行政区

行政区で困りごとを洗い出し、それぞれの地域ができる範囲で支え合いの仕組みづくりを進める話し合い等が行われました。通いの場・居場所づくりとして、いきいきサロンの実施、麻雀教室の実施、公民館等で開放日を決めて住民が気軽に集える場所づくり、夏休みにラジオ体操を子どもから高齢者までが一緒に実施する活動等が進められています。また、声かけ・見守り活動としては、老人クラブ事業の愛の一声友愛訪問事業を活かした声かけ・見守り活動の実施、日ごろからの地域の繋がりを大切にした地域の皆さんの声かけ・見守り活動が進められました。生活支援として、高齢者宅への食品・生活用品・衣類等の配達、家電修理の訪問等ができるように調整し、情報発信する活動が進められました。健康づくり・楽しみづくりとして、地域にある福祉施設の広場を借りて、グラウンドゴルフの実施が進められました。

事業者や福祉事業所等と協力・連携した生活支援や介護予防等の活動が少しずつ始まり、地域の特性に合わせた活動が生まれています。

(2) 各校区

①大溝校区は、買い物難民の対策として「買い物支援」について、移動販売のニーズに対するマッピング調査を実施し、商店から遠い校区西部の地域で買い物に困っている、今後困るといふ高齢者が多くいることが分かりました。この結果を踏まえ、町商工会及び事業者（生協）との協議を進め、今後、町のサービス店（20店舗）を集め買い物支援に関する合同協議を行い、具体的な方法を説明し、町のサービス店でできる支援を検討していくことに決まりました。また、買い物支援ができる事業者（生協）との協議では、支援内容や特徴、条件等の確認を行い、町外事業者の力が必要な時には、依頼ができる体制を整えました。

②木佐木校区は、介護予防や仲間づくり等に効果があり地域の拠点となるいきいきサロンが、平成31年4月時点で16行政区中6行政区でしか実施されていないために、いきいきサロンを推進することになり、木佐木校区ささえ隊ふれあいいきいきサロン推進協議会を開催しました。推進協議会では、サロン開設に向けた準備段階でのリーダーを決め、各行政区でサロンの説明会を実施、支援をしました。結果、令和2年度からは新たに8地区で開設する運びとなりました。

③大莞校区は、地域のニーズを把握するための全戸アンケート調査を行い、回収率は約70%と住民の関心の高さがうかがえました。アンケート結果については、行政区ごとにグラフを使ってまとめ、説明会を実施しました。集計内容としては、地域での「あいさつ・声かけ・みまもり」が必要とする意見が最も多く、次いで外出支援が必要という結果でした。この結果、まずできることとして、「あいさつ・声かけ・みまもり運動」の実施について検討し、あいさつ運動の先進地であるみやま市へ視察に行きました。そして、その内容を参考に、全戸へのチラシの配布および各行政区に旗を設置し、運動を進めることになりました。

(3) 町全体（大木ささえ隊作戦委員会）

各校区ささえ隊の取り組みについて情報交換・情報共有を行いました。また、行政区・各校区・町全体での活動等の充実を図るために、助成金交付の仕組みづくりについて協議をしました。

2) 住民によるサービス提供や地域活動等への支援

地域活動の担い手の養成として、全8回の大木町ボランティア養成研修を実施しました。全日程修了者は大木町ボランティアとして登録していただき、当社会福祉協議会事業であるもみじ倶楽部・元気クラブ、町の事業であるおおき健康大学・からだところの健康度チェック等にボランティアとして活動していただきました。また、今年度から活動に対しては、大木町地域ポイントを付与しています。

3) 町との連携

定期的及び必要に応じて話し合いを行い、行政区、校区、町全体の大木ささえ隊の状況や地域の課題等の情報を共有し、大木ささえ隊の安定した運営の支援及び課題解決に向けて密に連携を取りました。

4) 広報活動

大木ささえ隊の活動状況及びボランティア養成研修開催のチラシの配布や当社会福祉協議会のホームページに掲載しました。

【活動報告】

- ①行政区ささえ隊協議 9行政区 15回
- ②大木ささえ隊説明会 11行政区 11回
- ③大木ささえ隊校区部会 7回
校区部会役員会 10回
- ④大木ささえ隊作戦委員会 2回
- ⑤移動販売マッピング調査 14行政区 12回
- ⑥木佐木校区ささえ隊ふれあいいきいきサロン推進協議会 1回
- ⑦木佐木校区活性化協議会木佐木校区ささえ隊事務局間会議 2回
- ⑧ふれあいいきいきサロン説明会 10行政区 7回
- ⑨大木ささえ隊の広報の発行
大溝校区ささえ隊月報の発行 7回（連載あり）
大木ささえ隊通信の発行 2回（全戸配布）
- ⑩大木町ボランティア養成研修
全8回（1クール4回、追加研修2回）
今年度新規登録者 18名、合計登録者 114名
- ⑪大木町ボランティアステップアップ研修
ボランティア養成研修を修了し大木町ボランティアとして登録された方に対して、さらなる知識及び技術の向上として、ステップアップ研修を開催しました。
前期 令和元年9月27日(金) 10:00~12:00 参加者25名（うち対象者外2名）
後期 令和2年3月3日(火) 14:30~16:00 新型コロナウイルス感染症拡大予防のため中止

【職員研修等】

- ①生活支援コーディネーター連絡会 2回
- ②地域ケア会議 5回
- ③みやま市フォーラムにて講演
- ④川崎町社会福祉協議会視察受入れ

2. 小地域活動「ふれあいいいきいきサロン」の普及事業

介護保険制度の改正に伴い、高齢者の居場所や交流の場づくりが重視されるなか、小地域を拠点に高齢者の閉じこもりや寝たきり防止、仲間づくりや生きがいづくりを目的として、地域の高齢者とボランティアがともに集える場づくりを進めるサロン事業の普及に努め、今年度は上木佐木中のサロンが立ち上がり、26行政区21ヶ所のサロンが活動しました。

各地区のサロンでは、茶話会や食事会、レクリエーションや健康・介護予防の体操、脳トレーニング、外出行事や趣味の講座、多世代交流等それぞれの地域特性を活かした活動が行われました。

また、11月には「第8回大木町ふれあいいいきいきサロン大会」を福祉フェスタと同時開催し、サロン大会の3本柱である講演会・全地区サロンの発表・体操を行いました。体操では大木町独自の「大木かたらんね体操」が初披露され会場が盛り上がりました。来場された方々は、各地区のサロン活動を見て住民同士の交流を深め、地元のサロンの活性化へとつなぐことができました。

第8回 大木町ふれあいいいきいきサロン大会（福祉フェスタと同時開催）

実施日 令和元年11月17日(日) 10:00~12:00

場所 こっぼーっとホール

- 内容
- ◆講演 講師 みらいクリニック院長 今井 一彰 氏
演題 「病氣にならない いのちの土台づくり」ゆびのば体操
 - ◆全地区サロン状況紹介
 - ◆体操 講師 NPO 法人アクアススポーツクラブ
事務局長兼チーフインストラクター 矢野 十志衣 氏
株式会社健康科学研究所 健康運動指導士 植木 真 氏
「大木かたらんね体操」の紹介

参加人数 137名

サロン名	実施回数	内容
福寿会サロン (福間北・南)	14回	出前講座、カンタン体操、粽づくり、七夕祭り、いきいきサロン大会、ゲーム、お茶会、昼食会等
大角東サロン	6回	血圧測定、出前講座、お茶飲み会、レクリエーション、脳トレーニング、節分豆まき等
上八院下サロン	11回	カンタン体操、大喜楽サロン（アクアス）出前講座、茶話会等
和加波サロン (荒牟田)	13回	防災講話、カンタン体操、七夕祭り、認知症予防体操、いきいきサロン大会、健康体操、ゲーム、園児との交流会等
牟田サロン	13回	出前講座、脳トレーニング、お花見会、大喜楽サロン（アクアス）、レクリエーション、健康体操、七夕まつり、子ども達との交流会、クリスマス会、しめ縄づくり、茶話会等

上白垣サロン	12回	脳トレーニング、体操、レクリエーション、茶話会、多世代交流夏祭り、健康体操、しめ縄づくり、食事会（おでん）等
大角西いきいきサロン「ひまわり」	6回	体操、脳トレーニング、ミルキングアクション、新聞紙バッグづくり、茶話会、食事会、大溝保育園児との交流、熱中症予防講和、折紙、認知症トレーニング、「菱の花」ミニコンサート、カラオケ、日舞、寸劇（ねずみ経）、講話（老人施設の現状）等
横溝本村サロン	12回	花見会、苺大福づくり、ちまきづくり、出前講座、大喜楽サロン（アクアス）、お楽しみレクリエーション（WaKka）、大角西いきいきサロン視察、しめ縄づくり・芋だご汁、ぜんざい会等
古賀サロン	9回	簡単体操、レクリエーション、茶話会、認知症予防体操、多世代交流夏祭り、大喜楽サロン（アクアス）、スロージョギング教室、健康体操、いきいきサロン大会、食進会の料理教室（男性）等
前牟田東げんきサロン	6回	ゲーム、茶話会、マジックショー、甲講師運動実施指導、脳トレーニング、健康体操、育成会交流会、七夕飾り、西瓜割り、大溝保育園児交流会、手づくり料理昼食会、矢野講師による大木かたらんね体操、高齢者の交通安全等
八町牟田上サロン（青春クラブ）	16回	健康体操、カラオケ、多世代交流（魚釣り、竹馬、グラウンドゴルフ）よど祭り、餅つき、茶話会等
五反田サロン	3回	血圧測定、茶話会、ぜんざい会等
道本サロン	7回	健康体操、脳トレーニング、合唱、ゲーム、食事会、大木かたらんね体操、子どもと七夕会、いきいきサロン大会、しめ縄づくり、大喜楽サロン（アクアス）等
十間橋サロン	12回	茶話会、ゲーム、花植栽、いきいきサロン大会、絵、レクリエーション、茶話会、プランター花植、芋ほり、干支づくり等
蛭池サロン（北・中・南）	12回	健康体操、脳トレーニング、レクリエーション、茶話会、食事会、懇親会、体操DVD鑑賞、いきいきサロン大会、カラオケ、ゲーム等
上木佐木中	2回	健康体操、茶話会

笹渕光サロン	8回	健康体操、脳トレーニング、ビンゴゲーム、輪投げゲーム、脳トレーニング大豆移動ゲーム、出前講座、コミュニケーションマージャン、健康体操、食事会、茶話会、いきいきサロン大会等
高橋よかよかサロン	6回	茶話会、ヤクルト健康講座、簡単体操、健康体操、レクリエーション、マジックショー等
中村サロン	6回	出前講座、茶話会等

【健康づくりセミナー】

小地域を拠点に高齢者の閉じこもりや寝たきり防止、仲間づくりや生きがいづくりを目的として、高齢者とボランティアがともに集える場づくりを進めるサロン事業の活性化を図り、ふれあいきいきサロンのリーダー育成の場として老人クラブ連合会と協働でセミナーを開催しました。セミナーを全日程修了された方には修了証と“おおき健康隊”のポロシャツを配布し、おおき健康隊として町内の地域活動や各地区のサロン活動のリーダーとして活動していただいています。

また、過去の修了者も新たな学びとしておさらいセミナーを行い、最新の知識と技術をもったおおき健康隊員として町内の高齢者の健康づくりに貢献していただいています。

令和元年度は、全7回のセミナーのうち5回は健康づくりセミナー、2回はおさらいセミナーを開催しました。健康づくりセミナーでは、アクアスポーツクラブと当大木町社会福祉協議会と音楽の専門家が協働で作成した大木町独自の安全で誰でも行える「大木かたらんね体操」を重点的に指導していただきました。地域の皆様の介護予防等に広く役立ててもらうように実施しました。参加人数30名中、修了者は15名、うち新規修了者は4名でした。平成23年度から令和元年度までの修了者は112名で、おおき健康隊員として活動していただいています。

①第1回 令和元年6月25日(火) 参加者21名

第2回 令和元年7月25日(木) 参加者19名

第3回 令和元年8月22日(木) 参加者21名

第4回 令和元年10月1日(火) 参加者19名

視察：介護予防事業「ゆうゆう会」(大川市)

第5回 令和元年10月30日(水) 参加者17名

講師：NPO法人アクアスポーツクラブ

事務局長兼チーフインストラクター 矢野 十志衣 氏

株式会社健康科学研究所 健康運動指導士 植木 真 氏

②おさらいセミナー前期

前期 令和元年9月6日(金) 参加26名

テーマ「すぐに使える楽しいレクリエーション・ゲーム・体操」

講師：甲 鶴子氏

③おさらいセミナー後期

後期 令和2年2月18日(火) 参加者28名

テーマ「楽しみながら、身体づくりも心も元気にな～れ」

講師：後藤 澄子氏

【その他研修会等】

みんなが主役の元気な地域づくりセミナー 新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止

【ふれあいきいきサロン連絡協議会】

町内のサロンの情報交換と新しく立ち上がったサロンの運営がうまくいくように相互の協力を

制をつくるため連絡協議会を設置しています。このなかで各地域のサロン運営状況を報告したり、活動内容の情報交換を行うなど、町内のサロン全体の状況を把握しています。

第1回目 令和元年5月20日(月)

第2回目 令和元年9月2日(月)

第3回目 令和2年3月9日(月) 新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止

【大木かたらんね体操の共同制作】

地域住民の健康づくりをより効率的・効果的に支援するためNPO法人アクアスポーツクラブと共同で大木町独自の「大木かたらんね体操」を制作しました。また「大木かたらんね体操」を使って安全に楽しく健康づくりができるよう、研修会を開催しました。

①福祉事業所向け研修会

第1回目 令和元年12月3日(火) 4事業所 4名参加

第2回目 令和元年12月17日(火) 3事業所 7名参加

②令和2年3月26日(木) 木佐木校区ささえ隊での研修会を予定していましたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止しました。

【大木町老人クラブ連合会 事務局】

当大木町社会福祉協議会では大木町老人クラブ連合会の事務局を担当し、老人の福祉の向上、大木町老人クラブ連合会活動及び単位老人クラブ活動の推進、地域奉仕活動を推進しました。

①総会、諸会議、各研修会、各行事などの支援

令和元年度新しい取り組みとして、スマートフォン教室を全日程5回実施の支援

②グラウンドゴルフ、ペタンクの老人クラブ3大スポーツイベントの支援

③愛の一声友愛訪問事業の推進

④大木町老人クラブ連合会へ活動費を助成

障害者自立支援事業

1. 指定相談支援事業所「おおき」 <受託事業>

障がい者が日常生活で生じる様々な不安や課題に関する相談に応じ、適切な助言及び情報提供等を行い、福祉サービスの利用については関係機関と密な連絡調整をとりながら、必要な障害支援区分認定調査やアセスメント(事前評価)、計画作成を行いサービスの利用につなぎました。

また、定期的にモニタリング(状況確認)をして、必要に応じて利用計画の見直し等も行いました。大木町地域自立支援協議会実務者会議を年3回開催して、障がい者がいつまでも安心して暮らしていけるような地域づくりのために関係機関と協議しました。これまでの協議により、平成27年からは、就業・生活支援センター「ぼるて」と共に月1回の出張就労相談窓口(イオン大木店内コミュニティルーム「WeWe」)、令和元年度からは、障がい者の余暇活動の支援を目的に、毎月1回日曜日に「フリースペースおおき」(イオン大木店内コミュニティルーム「WeWe」)を開設しています。

就労相談窓口には、これから仕事をしたい方や仕事をしているけれども悩みがある方等が相談に来られています。

フリースペースには、1回平均4名の方が参加され、一緒にゲームをしたり食事をしたりと、交流の場を提供しています。

《 障がい者等の相談件数 》 ※延べ数

上段R元年度 下段H30年度

身体障がい		重症心身		知的障がい		精神障がい		発達障がい		難病		その他	
者	児	者	児	者	児	者	児	者	児	者	児	者	児
80	16	56	6	213	102	279	0	27	71	15	0	6	9
91	22	41	3	209	31	239	0	54	52	23	0	6	3

《 相談内容 》 ※延べ数

上段R元年度 下段H30年度

内 容	件数	内 容	件数
福祉サービスの利用に関する支援	718	保育・教育に関する支援	300
	532		212
家族関係・人間関係に関する支援	497	生活技術に関する支援	471
	346		300
健康・医療に関する支援	646	家計・経済に関する支援	90
	393		72
不安の解消・情緒安定に関する支援	849	就労に関する支援	327
	700		238
障がいや症状の理解に関する支援	429	社会参加に関する支援	236
	190		113
権利擁護に関する支援	2	その他	5
	5		4

【 障害支援区分認定調査 】

障害福祉サービスを利用する場合、サービスの種類によっては障害支援区分認定を受ける必要があります。そのため、町の委託を受けて、障がいのある方やその家族等と直接会って、障がいの多様な特性やその他の心身の状態に応じて必要とされる支援について、聞き取り調査を実施しました。

調査件数 45件

2. 計画相談支援事業・障害児相談支援事業

《 計画相談数 》 ※実数

上段R元年度 下段H30年度

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
新規計画	16	9	6	21	7	7	18	6	10	8	7	12	127
	16	4	4	23	3	5	6	2	6	6	2	15	92
モニタリング	1	10	25	9	18	27	8	13	22	18	18	29	198
	8	13	9	8	28	22	7	7	31	8	10	12	163

【 相談員担当者研修 】

①障害支援区分認定調査員研修(現任)	令和元年 11月 21日(木)
②自殺未遂者支援研修	令和元年 10月 7日(月)
③医的ケア児等コーディネーター養成研修	令和元年 6月 8日(土) 9日(日)
	令和元年 7月 6日(土) 7日(日)
④筑後特別支援学校ネットワーク研修会	令和元年 6月 19日(水)
⑤八女筑後・久留米圏域相談支援従事者研修会	令和元年 10月 18日(金)

【 会議等の出席 】

①八女筑後・久留米圏域委託相談支援事業所情報交換会	令和元年 10月 18日(金)
	令和2年 1月 17日(金)
②福岡県ひきこもり支援者等ネットワーク会議	令和元年 12月 12日(木)
③障害者就業・生活支援センター連絡会議	令和元年 12月 12日(木)
④精神障がい者地域支援事業関係機関会議	令和元年 10月 1日(火)
⑤福岡県立筑後特別支援学校地域懇談会	令和元年 6月 29日(土)
⑥大木町要保護児童対策地域協議会実務者会議	令和元年 6月 11日(火)
	令和元年 9月 3日(火)
	令和元年 9月 3日(火)
	令和元年 12月 3日(火)
	令和2年 2月 19日(水)
⑦大木町地域自立支援協議会実務者会議	令和元年 7月 4日(木)
	令和元年 10月 9日(水)
	令和2年 2月 5日(水)
⑧大木町地域自立支援協議会実務者会議懇談会	令和2年 1月 21日(火)
⑨障害者相談支援ネットワークふくおか世話人会	令和2年 2月 21日(金)
⑩指定一般相談支援事業所集団指導	令和元年 7月 1日(金)
⑪福岡県自立支援協議会担当者会議	令和2年 2月 21日(金)

3. 意思疎通支援事業 <受託事業>

手話奉仕員養成講座(入門編)

厚生労働省が定めた手話奉仕員養成カリキュラム入門編に基づいて、以下の要項で手話奉仕員養成講座(入門編)を開催しました。今回の申込者は16名、その内80%以上出席された15名の方に大木町より入門講座の修了証が渡されました。

実施日 6月4日から11月5日までの毎週火曜日 19:00~20:30 計22回

※但し、8月13日を除く

場 所 大木町健康福祉センター 視聴覚室

対象者 大木町在住の方・大木町内で働いている方・大木町内で手話奉仕員として活動できる方

定 員 20名

講 師 柳川市聴覚障害者協会・手話サークル、みやま市ろうあ者協会・手話サークル、大木町手話サークル「なないろ」

参加費 無料 (但し、手話奉仕員養成テキスト代3,240円は徴収)

4. 成年後見制度啓発研修事業 <受託事業>

成年後見制度の概要を知り、実際に活動されている成年後見人等から実際の支援の状況を聞くことで、障がい者の権利擁護と成年後見制度の理解促進を図ることを目的に、成年後見制度講座を開催しました。

実 施 日 令和2年2月15日(土) 第1部 10:30~12:00、第2部 13:30~15:00

内 容 第1部 成年後見制度について(制度の概要)
第2部 成年後見人等の支援の実際
講 師 公益社団法人 福岡県社会福祉士会 ばあとなあ福岡
参加者数 第1部 15名 第2部 12名

共同募金配分金事業

自分たちの住む地域を自分たちでより豊かにするために、お互いが助け合ってよりよい地域社会をつくり上げるという連帯の精神 ～たすけあいの精神～ の大切さを確認し合うこと、これが共同募金運動の重要な目的です。当社会福祉協議会では地域福祉の充実を図るため5つの事業に分けて実施しました。

令和元年9月の台風15号及び10月に発生した台風19号では、当社会福祉協議会、町、日本赤十字大木町分区の3団体が協力して町内7か所(役場、図書情報センター、シルバー人材センター、健康福祉センター、アクアス、道の駅おおき、WAKKA)に義援金箱を設置し、たくさんの方から義援金をいただきました。いただいた義援金は3団体で分割し、当社会福祉協議会分は全額共同募金へ納付しました。

配分金

一般募金は前年度に集まった金額が当年度の事業として、高齢者活動事業、児童・青少年活動事業、福祉育成活動事業、ボランティア活動事業に配分され、地域における福祉課題に対応し、高齢者支援、福祉教育、広報・啓発、社会福祉施設の整備、災害時のボランティア活動の支援等様々な福祉活動が実施されます。

また歳末たすけあい募金は、当年度に集まった金額が当年度の事業として生活困窮者支援、福祉団体支援等に配分されます。

また、皆様から頂きました募金金額の一部は中央共同募金会に収集され、国内で起こった災害の活動支援資金として配分されます。

1. 高齢者福祉活動事業

①大木町老人クラブ連合会事務局支援

当社会福祉協議会では大木町老人クラブ連合会の事務局を担当し、老人の福祉の向上、大木町老人クラブ連合会活動及び単位老人クラブ活動の推進、地域奉仕活動を推進しました。

②健康づくり事業

老人クラブ連合会と当社会福祉協議会との協働で開催している健康づくり事業に対して助成しました。

③愛の一声・友愛訪問事業

一人暮らし高齢者や高齢者のみの世帯が増加する中で、高齢者が安否確認や話し相手、簡単な生活支援を行う見守り活動に対して助成しました。

2. 児童・青少年福祉活動事業

【福祉映画】

社会福祉への理解と関心を深め、思いやりのある心、感謝の心を育てるために、上映希望のあった大荒小学校の児童を対象に福祉映画「大ちゃん、だいすき。」の鑑賞会を実施しました。

「大ちゃん、だいすき。」(あらすじ)

小学校4年生のまいには重度の障がいを持った兄(大ちゃん)がいる。まいは大ちゃんのことと同級生にからかわれ傷つくが、夏休みに突然母親が倒れ、施設に預けられることになった大ちゃんをかわいそうに思い、面倒を見る決心をする。障がいをもった子とともにひたむきに生きる両親や兄妹の家族の愛と絆、そして周りの人々の温かさを描いた作品。

【保育園・幼稚園・小学校の福祉教育活動の推進】

各保育園・幼稚園・各小学校・中学校へ福祉教育活動計画書により助成しました。

- ①町内各保育園・幼稚園へ1万円の助成
- ②町内各小学校へ4万円の助成

3. 福祉育成援助活動事業

【社協だより発行】

町民へ当社会福祉協議会活動の理解と協力を深めるため、「社協だより」を年4回（4月、7月、10月、1月）発行し全戸に配布しました。当社会福祉協議会が実施している事業や各地区のサロン、福祉団体の紹介、各種セミナーの案内や事業報告・決算報告などを掲載しました。

【ホームページ公開】

今週のトピックスでは新しい情報を掲載し、当社会福祉協議会の事業紹介、事業報告・決算報告、隣市町村の福祉に関する情報等福祉関連の情報を提供しました。

【福祉教育読本「ともに生きる」の配布】

子どもたちの福祉への関心と思いやりの心の育成をするために、福岡県社会福祉協議会が作成した教育読本「ともに生きる」を大木町内の小学校5年生に配布しました。

配布日 令和元年5月

4. ボランティア活動育成事業

ボランティア活動の育成として、手話奉仕員養成講座の開講やボランティア保険の助成、その他ボランティア団体への支援を行い、ボランティア研修として福岡県社会福祉協議会が実施する「きずなフェスティバル」に参加募集し、希望されたボランティアが参加しました。

令和2年2月16日(日) きずなフェスティバル 参加者22名

【団体活動支援】

①大木町身体障害者福祉協議会の活動支援

身体障がい者(児)・知的障がい者(児)・精神障がい者(児)（発達障がいを含む）の福祉増進と社会参加を目的に活動支援を行いました。

- ・活動費の助成
- ・定期総会資料作成等の事務支援
- ・行事等の活動支援

②みすゞの会への支援

- ・活動費の助成
- ・大木町障がい者軽スポーツ教室の支援

③大木町母子寡婦福祉会への支援

母子会の新たな会員の募集とともに、ひとり親家庭の社会参加を目的に活動支援を行いました。

- ・活動費の助成
- ・総会、筑後ブロック交流会、レクリエーションの支援
- ・春休み、夏休み、冬休みの学習支援
- ・市郡会長、母子部役員会等の支援

【災害ボランティア保険料の全額補助】（町民のみ）

国内で起きた災害ボランティア活動をする場合、ボランティアが住んでいる地域の社協でボランティア保険に加入後、被災地の災害ボランティアセンターに行き活動することになっています。そのため、当社会福祉協議会では、町民が各地の災害ボランティアセンターへボランティア活動に行かれる場合は、活動支援としてボランティア保険料の全額を助成することにしています。

令和元年度は佐賀県等の災害ボランティア活動保険の申し込みをされた方にボランティア活動

保険料を助成しました。

・今年度ボランティア活動者数 2名 有効期限：令和2年3月31日

5. 歳末たすけあい配分金事業

歳末たすけあい募金は、支援を必要としている地域の方が安心してその地域で暮らしていけるように地域福祉活動等に配分されている募金です。令和元年12月1日から12月31日に寄せられた募金は、当年度の事業として町内の地域福祉活動に活用しました。

【 ボランティア団体への助成 】

当社会福祉協議会に関わるボランティア団体に対し、活動計画の助成金申請に沿って団体活動助成金を支給しました。(7団体)

【 サロン事業助成 】

令和元年度に集まった募金のうち40万円は同年度のふれあいいきいきサロン活動の助成金として配分し、26行政区21ヶ所の開設地区サロンに、活動助成金として支給しました。

【 生活支援費 】

一時的に経済困窮に陥っている方、何らかの理由で緊急的に生活困難になっている方に対し、詳細に状況を聞き取り、その方の生命の維持と生活の安全を考慮したうえで、経済的困窮者には返済方法を含めた生活費の貸付け(生活福祉資金の対象にならなかった方、または生活福祉資金申請に至るまでの時間的余裕がなかった方)及び現物支給を行いました。また虐待等受けている方には宿泊先の確保に努めました。いずれもその後は、関係機関とともにその方の安定した生活を営むための支援へとつなぎました。

今年度の対象者 生活支援費の貸付け 2件
現物給付 1件(食料品)

【 災害支援事業助成 】

町内で起こった火事・災害等の被害者に対し助成を行います。今年度は、災害がなく該当者がいなかったため支給していません。

福祉フェスタ

今回の「大木町福祉フェスタ2019」では、普段触れることが少ない福祉に関する様々なものについて、触れる・知る・感じる機会を提供し、来場された多くの方々がふれあいや体験を通して、笑顔で繋がっていただけることを目指して開催しました。

開催日 令和元年11月17日(日) 10:00~16:00

場 所 大木町総合体育館

テーマ ボランティアの輪 しあわせの輪 さらに大きく

【 主な実施内容 】

- ①第8回大木町ふれあいいきいきサロン大会
- ②第4回大木町障がい者スポーツ大会
- ③赤い羽根共同募金・ボランティア団体・ふれあいいきいきサロン等の紹介ブース
- ④障がい福祉サービス事業所等による物販
- ⑤参加団体のPRや手品サークル、ハワイアンフラによるステージ披露
- ⑥障がい者スポーツ体験(ボッチャ)

苦情解決の第三者委員設置

社会福祉法第 82 条により、社会福祉事業者には利用者の権利擁護と福祉サービスの質的向上を図るため、福祉サービス事業に関する利用者等から寄せられる苦情に適切に対応し、解決することが義務付けられています。この法に則り、当社会福祉協議会は、苦情解決第三者委員会を設置しています。

また、福岡県社会福祉協議会主催の研修会に参加することより、苦情解決事業への一層の理解と第三者委員等の役割について研修を受け、福祉サービス向上に努めました。

今年度中の苦情に関する受付はありませんでした。

災害ボランティアセンターへの職員派遣

令和元年 8 月に、福岡県社会福祉協議会より佐賀県内の災害ボランティアセンターへ職員派遣依頼がありましたが、少人数の募集であったために派遣は行っていません。

その他研修等

当社会福祉協議会職員のスキルアップや情報収集、また他機関との情報交換や交流を目的に様々な研修に参加しました。

- ①社会福祉協議会職員研修
- ②生活福祉資金研修
- ③共同募金研修
- ④地域福祉研修
- ⑤社会福祉協議会会計研修
- ⑥労務管理研修
- ⑦新任職員研修
- ⑧広報研修
- ⑨福岡県母子寡婦福祉大会
- ⑩ふくおかライフレスキュー事業サポーター研修
- ⑪高齢者相互支援推進事業研修
- ⑫働き方改革研修
- ⑬民生委員児童委員協議会視察研修
- ⑭福岡県社会福祉大会
- ⑮人権研修
- ⑯感染症予防研修
- ⑰救急救命講習
- ⑱認知症研修
- ⑲アンガーマネジメント研修